



2013年4月25日

将来は公共の手に — すべての人に質の高い公共サービスを！ 2013年5月1日 国際労働者の日

1886年、8時間労働を求めてヘイマーケットで抗議運動を展開していた大勢の労働者が死傷しました。国際労働運動は彼らを思い起こす日として、5月1日のメーデーを記念します。今日、世界のネオリベラル主義者は、経済金融危機を口実に、団体交渉を行う権利と、労働者が必死の思いで獲得してきた社会・労働権を奪う姿勢です。労働者と地域社会は団結のもと、民営化を拡大し、公的支出を取り戻し、国の規模と役割を縮小し、公共部門の職場における社会対話と団体交渉を攻撃するために利用されている一連の措置を覆す決意でいます。

国際公務労連のローザ・パヴァネリ書記長はこう語ります。「幸運な一部の人々だけに人間らしい雇用を実現し、それ以外の人々に不安定労働を強いる将来を受け入れることはできません。女性、若者、子供の搾取が標準的であり、不法入国した数百万人もの移民労働者たちが奴隷のような労働条件で働かざるをえない将来を受け入れることはできません。

私たちには、将来の世代に対し、労働組合と社会的権利を守る責任を負っています。私たちは、将来的に質の高い公共サービスが、すべての人々に社会正義と平等をもたらしながら若者にも高齢者にも利用できるものとなるよう約束する団体行動に参加していかなければなりません」

女性や若者は、削減や緊縮措置の矢面に立っています。職場と社会における女性の平等を推進する公共サービスと公的機関が削減を受けたことで、女性の平等を求める長き戦いが後退しました。若者は、十分な研修を受けられず、労働市場からも除外されています。

公共サービス、インフラ、産業政策への公的投資は、持続可能な開発と安定した成長、人間らしく良い雇用を増大させます。しかしながら、公共部門への資金は、大変な速度で減少しています。脱税に対して効果的な措置を講じ、進歩的な税制を敷くことで、強固な公共サービスを構築する資金が生まれるはずですが。

世界各地では、公共サービス労働者の労働組合権が、徹底的な禁止や制限、「基本的サービス」の誤用、暴力、脅迫などにより侵害され続けています。労働組合権に対するこうした攻撃は、民主主義と社会開発に対する暴行です。

2012年6月に開かれた国際労働総会では、使用者グループが、専門家は条約を解釈する権限を持たないとして基準適用委員会の取り組みを阻止し、ILO第87号条約から生じる争議権に関わる事例を議論することを一切拒否しました。使用者によるこの戦略は、ILOの監督制度を破壊しようという狙いによるものです。こうした行き詰まりを解決するための交渉は2013年も続きます。

パヴァネリ書記長はこう語ります。「国際労働機関は1919年、第1次世界大戦を終結させたベルサイユ条約の一環として、普遍的かつ永久の平和は社会正義に基づくものである限り達成しようという信念を反映して創設されました。今日もこの信念を抛り所にしましょう。PSIは、2013年6月のILO総会までの期間、政府、社会的パートナーとしっかりと関わっていくことを加盟組合メンバーに呼びかけます。

PSIは引き続き、アルジェリア、グアテマラ、韓国、トルコその他、不正がはびこる国々で結社の自由を求めて戦います。私たちは今、これまで以上に、労働者の権利を守るべく団結して強く立ち上がって行かなければなりません」